

防水生地・撥水生地の取り扱いについて

- ナイロン製撥水素材には、柔らかくテロンとしたもの、しっかりとしたもの、ぬめりがあるもの等、特性はさまざまです。ここでは一般的な取り扱いをご紹介します。
- 印つけ
ポケットなど、通常チャコや切りじつけ（糸じつけ）で印をつけていたところは、チャコペーパー＋ソフトルレットがお勧めです。

- テフロン押さえ
職業用、家庭用、それぞれ、専用の押さえがあります。すべりを良くし、スムーズに生地を送ります。これがあると大変便利でおすすめです。



ソフトルレット
刃先が丸く、
生地に穴が残らない

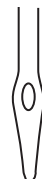
- 針と糸の選びかた
素材によっても違いますが、通常の縫いやすそうなナイロンタフタ等の場合は、針は9番か11番の普通針、糸は50～60番。糸の種類はスパン、もしくはフィラメント糸が向いています。通常よりも素材がかなり柔らかく、しなやかで、織糸も細い素材などの場合には、針は9番の普通針、もしくは10番のボールポイント針を使用します。防水素材はスパン糸と普通針でいいと思います。

ボールポイント針は基本的にニット用ですが、織糸に針が刺さり、織糸が引っ張られて、ストッキングの伝線のような状態になるのを防ぐ効果があります。ただし、かなり薄くてしなやかな（例えばかなりの薄地、高級裏地）素材でなければ普通針でOKです。

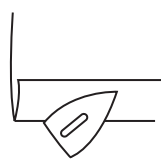
普通針
先が尖っています



ボールポイント針
先が丸くなっています



- アイロンのかけ方
基本的にアイロンがかけにくい素材です。また、高温でかけると熱で素材が溶けてしまいます。かけるときは150℃くらいで、アイロンをあてたらすぐにタオルをたたんだものなどで熱を取ると、折り目が安定します。蒸気（スチーム）はあてないでください。



すぐに

アイロンしたところを
ポンポンと押さえる



ハンディプレス

ミトンのように手にはめて、
アイロンマットの代わりに使える
こんな道具を使うのも便利です。



アイロンは、熱を加えると不安定になり、熱が冷める時に安定します。その性質を踏まえてアイロン掛けすることで、撥水生地も仕上がりがきれいになります。ただし、家庭用のアイロンは、温度表示がかなり曖昧なものが多いです。150℃と表示されていても、実際はとても高温になっているということもありますので、生地端や残り布などで試しアイロンをして、縮みなどないか確認の上、作業するようにしてください。

- 生地の伸縮がなく、ごまかしがきかない素材のため、カーブの違う縫い合わせは、縫いずれしないよう、ゆっくりと針を進めてください。